

ロシア：Gazprom の東シベリアへの積極的進出は同地域の開発を促進するか

(2003 Petroleum Argus5/16, 5/30, Nefte Compass6/12, RPI5月号)

1. Gazprom がロシア政府の支持を受けながら、東シベリアのガス田開発及び輸送に積極的に乗り出している。
2. Gazprom は従来から東シベリアに権益を有していないが、同地域が民間会社によって開発され、東アジアに天然ガスが輸出されれば、Gazprom の天然ガス輸送独占体制が脅かされることになる。
3. 従って、Gazprom は東シベリア開発への参画に積極的であるが、それは同社の「独占維持」が大きな目的であるため、必ずしも同地域の開発促進につながらず、むしろ既存の開発会社の活動を阻害し、停滞要因となりうるとの見方もある。

1. Gazprom の東シベリアへの関心

Gazprom が東シベリア地域の天然ガス開発に関心を高めている。5月には Kogas と韓国へのパイプライン建設スタディを含んだ5年間の協力に合意し、また CNPC との東シベリアの共同開発にも協議をすすめている。また世界ガス会議東京大会において Gazprom の Miller 社長が基調講演を行ったが、東シベリアを主要開発地域のひとつとした開発戦略を明らかにしている。ロシア政府は Gazprom を東シベリア・極東地域におけるガス輸出プロジェクトにおけるロシア側のコーディネーターと位置付けており、Gazprom は政府の支持を受けながら、同地域への進出に積極的である。

東シベリア地域のガス開発については Kovykta プロジェクト（概要は下記【参考】）がまもなく FS を完了するが、Gazprom は中でも同プロジェクトの参入に意欲的である。しかし同社の進出がこの地域の開発を加速させるかとのことについては懐疑的な見方があり、必ずしも東シベリアの開発促進要因にはならず、むしろ停滞要因になるとの見方すらある（後述）。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

【参考】Kovykta ガス田開発プロジェクト概要

ロシア・イルクーツク州のKovykta ガスコンデンセート田（Irkutsk 市の450km北西に位置する。）の開発を行い、そのガスをパイプラインにより供給する構想。可採埋蔵量は39.9tcf。

Rusia Petroleum がオペレーターで1993年11月に開発ライセンス（2018年まで有効）を取得している。Rusia Petroleum の株主は TNK-BP62.06%（BP32.95%、TNK29.11%）、Interros25.72%、Irkutsk 州11.66%、その他0.56%である。

1975年の震探により鉱床の存在が確認され、1987年に発見が公式発表された。2001年2月にPS法適用鉱区としてリストアップされたが、現在PS法の大幅な見直しが国会で審議されており、同鉱床の取扱いについてもPS法不適用の可能性も含めて明らかではない。（参考動向2003/5/29「下院審議でPS法が後退」）

Kovykta ガスコンデンセート田の開発には輸送インフラ（中国向けパイプライン）の整備が必要である。2005～2007年に商業生産開始の予定だが、中国へのガス販売価格交渉が難航している。同ガス田は本来ロシア国内供給をメインに開発が計画されたものであったが、大きな埋蔵量が確認され、天然ガス需要の急増が予測される中国が関心を示したため、アジア市場をターゲットにした国際プロジェクトへと位置付けがかわっていった。

Gazprom はロシア国内への天然ガス安定供給を掲げ、Kovykta プロジェクトへの関心をかねてから表明しているが、権益を有していない。Gazprom の働きかけにより「2020年エネルギー政策プログラム（2003年5月にロシア政府がドラフト承認）」では、Kovykta ガスコンデンセート田のロシア国内供給源としての位置付けと、輸出計画におけるGazprom の調整役としての役割が取り上げられている。これは、早急に輸出プロジェクトをすすめたいオペレーター側（BP-TNK）の主導権を脅かすものである。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

2. Gazprom の東シベリア開発の方針と問題点

Gazprom はプーチン政権になってから、プーチン大統領の腹心である Miller 社長のもと改革が強く求められてきた。特に近年の投資不足が原因による生産量減退への対策として、東シベリアの未開発地域への投資拡大を掲げていたが、具体的な動きはなかった。同社は Kovykta プロジェクトには早くから参入の希望を表明していたが、権益取得にはいたっておらず、今後もどのようなかたちで参入を果たすかは明らかではない。

Gazprom は 2003 年 3 月のロシア政府委員会において「天然ガスの中国及びその他のアジア太平洋諸国への輸出可能性を念頭においた、東シベリアおよび極東におけるガスの生産、輸送、供給に関する統一システムの構築プログラム」を提案し、政府の支持を獲得した。5 月にロシア政府が発表した「2020 年エネルギー政策」においても Gazprom の提案が取り入れられており、政府は現在 Gazprom を東シベリア地域の開発コーディネーターとして承認している。Gazprom の提案により、2020 年エネルギー政策では東シベリア地域の内需を満たすことがうたわれており、Kovykta の天然ガスは国内需要が優先されることとなっている。

Kovykta ガス田のライセンスホルダー Russia Petroleum は中国向け輸出を計画しており、Gazprom 同様ロシア政府の開発プログラムに働きかけを行っていたが、結果的に Gazprom の提案が取り入れられた。Gazprom の計画とは相違があり、政府が Gazprom を支持していることから、今後 Kovykta の開発が Russia Petroleum の思惑通り加速する可能性は低いと考えられる。

さらに Gazprom は先の世界ガス会議東京大会の基調講演において Kovykta から太平洋向けパイプラインを提示するなど、Russia Petroleum の中国向けパイプライン案への対立案を提示しており、同地域への関与を強めたい意向である。

Gazprom の東シベリアの進出は開発促進にはつながらないという見方がある。同社の性向として、開発計画及び関心の表明の一方でその後の実作業が伴っていない一面あり、今回のケースもこれがあてはまるとの見方もされている。Gazprom が東シベリアへの関心を表明しているのは、同社の天然ガス輸出の独占を維持することが大きな目的である。東シベリアにおいて Gazprom が関与しないかたちで、Kovykta～中国ガス輸出パイプラインプロジェクトが進展することは同社にとって独占体制を脅かすものである。

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。

3. Gazprom の韓国, 中国に対する最近の動向

Gazprom は韓国, 中国との協議を活発化させており, これは同社が東シベリアでのプレゼンスを高めるための戦略の一つと考えられる。2003年5月に Gazprom-Kogas トップ会談が行われ, 両社は5年間の基本協力を合意した。東シベリアから韓国に向けての天然ガスパイプラインのスタディも行われるであろう。現在東シベリアから中国への輸出パイプラインとして Kovykta ガス田からのパイプラインが BP 主導で計画されている。

Sakah-Yakutia 地方のチャヤンダ (Chayanda) ガス田, Sakhalin プロジェクトは Gazprom がライセンス取得に関心が高いプロジェクトだが, これらについても既に Kogas と協議を行っている模様で, 特にチャヤンダ (Chayanda) ガス田については Kogas との共同事業を提案しているようである。

また, Gazprom は東シベリアから中国への天然ガス輸出を計画するにあたり, 東シベリアの上流開発への CNPC の参加を働きかけている。

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (以下「機構」) 石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。

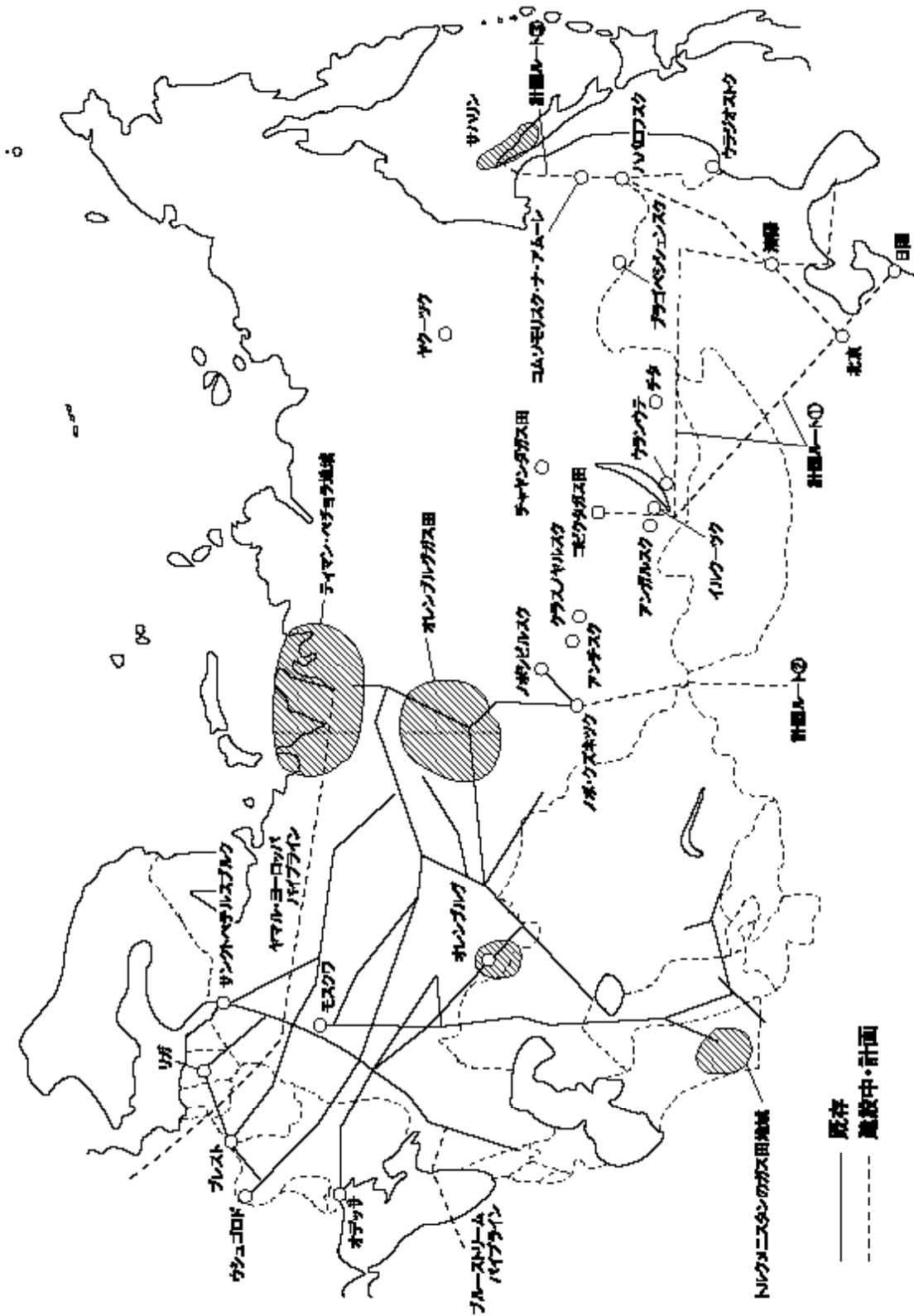
表4 東シベリアの主要油ガス田（*はPS対象油ガス田）

油田/鉱区	種別	地域	鉱区権者	鉱量	現 状
Yurubchen*	油 ガス	Evenki Autono- mous District	VSNK (Yukos 70.15%, Metalloinvest, 28.48%)	21億bbl 13.2Tcf	04年7万 b/d@KarabulaPL (317km) 05年 Phase-2 14-15万 b/d (幹線PL580km) 08年 Phase-3 26万 b/d の計画。 2020年には50万 b/d可能。
Kuyumbin	油 ガス	District	Krasnoyarsk- neft (Slavneft)	15.3億 b 10Tcf	Slavneft 株買収後は Sibneft 管轄下。 Yukos 傘下へ。試掘井10坑
Tersko- Kamov (S)	油		VNK (Yukos, 92.77%)	28.3億 bbl	Yurubchen 油田の南東隣接鉱区。現状試 掘井1坑のみで、C2 カテゴリーが主。
Vankor*	油		TFE (52%), VSNK	7.7億b	東シベリア北西部、開発計画策定中。近 隣に同規模3-4油田が期待される。
Kovykta	ガス	Irkutsk Oblast'	RUSIAPetroleum (BP 32.95%, Interros 25.71% TNK 29.11% Irkutsk 11.66%)	39.9 Tcf CI 22.7 Tcf C2 @2002	RUSIA Petroleum CNPC, KOGAS が 2000年11月FS計画に調印。ルートは Mongol パイパス。供給量は30Bcm/y (20Bcm が中国, 10Bcm 韓国)。FS2003年完了。
Verkhne- chon*	油		RUSIA Petroleum	1.17+0.3 3Bbbl	Yakutia の Sakhaneftegaz は Talakan 油田 (東 南東100km) との共同開発計画を主張。 Gazprom 関心あり。油田は商業生産目前
Chayanda	ガス	Sakha Repub- lic	Sakhaneftegaz (Yukos 50+, Yakut Government 45.8%)	43.8 Tcf 365 MMbbl	2002年末ライセンス失効。Sakhaneftegaz と CNPC が開発/PL の FS 実施 (99-01)。 ルート、価格で折り合わず。Gazprom (51%) と Yakuti (49%) 合弁企業設立の計画あり。 Sakhaneftegaz のライセンス没収後、2003
Talakan	油		Sakhaneftegaz	A+B 775.3 C1 132.1 MMbbl	年にライセンスの再々入札予定。Yukos, Sibneft, Rosnef, Severmorneftegaz, TNK, Surgutneftegaz, TotalFinaElf が関心。17 坑生産 (能力5万 b/d)。Angarsk へ1100km。
Sredne- botuobin	油		Taas-Yuryakh N. g. dobycha	3.8億b	生産中
Vilyuyガス 田群	ガス		Sakhaneftegaz	30Tcf	Yakutsk 等ローカル市場向け生産中。

(出典) 石油天然ガスレビュー2003年2月号「ロシアからの新しい石油・天然ガスフローを展望する」

Global Disclaimer(免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示してくださいようお願い申し上げます。



(出典)

石油天然ガスレビュー2001年3月号「胎動するロシア連邦東シベリア地域の石油天然ガス田開発」
http://www.jnoc-rp.jp/papers/2001/200103tada_russia.pdf

Global Disclaimer (免責事項)

本資料は石油天然ガス・金属鉱物資源機構（以下「機構」）石油・天然ガス調査グループが信頼できると判断した各種資料に基づいて作成されていますが、機構は本資料に含まれるデータおよび情報の正確性又は完全性を保証するものではありません。また、本資料は読者への一般的な情報提供を目的としたものであり、何らかの投資等に関する特定のアドバイスの提供を目的としたものではありません。したがって、機構は本資料に依拠して行われた投資等の結果については一切責任を負いません。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、機構資料からの引用である旨を明示していただきますようお願い申し上げます。